

令和5年度自己評価計画最終報告

石川県立金沢泉丘高等学校（通信制課程）

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度	集計結果	備考
<p>1 生徒への学習支援を積極的にを行い、家庭の理解と協力を得ながら報告課題の提出状況や出席日数の改善を図り、単位の修得率を上げる。その際、ホームページ等の改善や有効活用により情報発信の充実を図る。</p>	<p>①生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。 教職員は「学習進度表」を定期的に郵送することに併せて、学校配信メールやオンライン学習システムで「教務のお知らせ」を発信する。</p>	<p>教務課 教科会 学年会</p>	<p>第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>【判定 B】 前期受験率 77.6% 後期受験率 71.0%</p>	<p>・年度当初はレポートを提出するものの後期試験受験まで到達できない生徒が見られるが、例年よりも最後までレポートを提出できた生徒が増加してきている。 ・受験率を上げるため、年間を通して継続的に学習に取り組めるよう、オンライン学習システムをはじめとするICTツールの活用やスクーリングの内容の充実を図りたい。</p>
	<p>②教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日に質問を受ける体制をつくる。また、メールやオンライン学習システムや電話を含めいろいろな形で質問に答える。</p>	<p>教務課 教科会 学年会</p>	<p>メール、FAX、電話やオンライン学習システムで教科や科目の質問をしたのべ生徒数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満</p>	<p>【判定 C】 質問者数 177人 質問時間 2208分</p>	<p>・質問者数、質問時間とも前年より増加している。 Google Classroomによる質問がのべ7人から35人へと顕著に増加しており、質問形態の多様化に対応しつつあると考える。質問機会の拡大も含め、オンライン学習システムの内容の一層の充実を目指したい。</p>
<p>2 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図るため、時間厳守や適切な言葉遣いの励行、法や決まりの意義の理解と遵守など、学校内外を含めた生活活動を見直し、改善を図らせる。</p>	<p>① 登校指導におけるあいさつ活動やショートホームルーム等の、生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。</p>	<p>生徒・ 図書課 学年会 担任</p>	<p>「自分は生活規律を守っている」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>【判定 A】 97.4% 「自分は生活規律を守っている」97.4%</p>	<p>・基本的に真面目な本校生徒が、生活規律において高い意識をもって生活を送っている証だと思われる。また、「生活指導は適切に行われている」という問いに肯定的な回答が99%となっていることから、落ち着いた生活を送れていると考えられる。</p>
	<p>②いじめは絶対に許されない行為であることを、ショートホームルーム等で啓発したり、生活体験発表の機会を活かして周知したりするなど、生徒の「他者への思いやりの心」の育成を図り、よりよい学校づくりに努める。</p>	<p>生徒・ 図書課 学年会 担任</p>	<p>「学校生活は楽しい」という質問と「自分は生活規律を守っている」という質問の両方に肯定的な回答をした生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>【判定 A】 91.7% 「学校生活は全般的に楽しい」85.9% 「生活規律を守って生活している」97.4%</p>	<p>・生徒会行事に参加した後、楽しかったなど充実した時間が過ごせた話をたくさん聞くことができた。生徒会活動に、より積極的に参加する生徒が多く見られた。 ・「学校生活は全般的に楽しい」という問いに、R4年度と比較し10.9%増加した。</p>
	<p>③教職員が「ほけんだより」やショートホームルーム、学校配信メールで身体計測、各種検診の受診を呼びかける。</p>	<p>保健・ 相談課 学年会 担任</p>	<p>生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>【判定 C】 総合判定：52.5% 身体計測：64.6% 内科検診：50.5% 歯科検診：42.4%</p>	<p>検診の受診率については、今年度も低下した。受診者の数は昨年並みで、生徒の母数が約90名増えたことによる。特に、3、4年生の受診率が低い傾向にあり、順番待ちの列に並んで検診を受ける必要性を感じなかったのかもしれない。生徒の男女比は、女子の割合が高く、性別に配慮する検診には時間がかかることが今後の課題である。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>集団生活を苦手としている生徒に対して、多様な学びを提供するために、今後も個に応じたきめ細かな指導が望まれる。</p>				
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>年々生徒数が増加している中、生徒一人ひとりがより主体的に計画的な学習ができるように、今後も担任を中心に直接対面で、または電話連絡などによるコミュニケーションを取り続けていく。</p>				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度	集計結果	備考
3 生徒一人一人の生活状況を把握し、教職員間で共有することにより、組織的に支援する体制をつくる。	①保護者懇談会を6月と10月に実施し、生徒に関する認識を共有し、効果的な生徒支援を行えるようにする。生徒との面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。また教職員は学校配信メールなどにおいて随時情報を発信し、保護者に学校運営に関しての協力を求める。	総務課 学年会 担任	年度内に担任が1回以上懇談した保護者の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 C】 56.4% 生徒数592人中、保護者との面談数334人	昨年度は520人中、保護者との面談数は279人であった。通信制の在籍生徒数は昨年度より72人増加している。面談数が比例して多くなることは予想されていたが、見かけの判定こそ変わらなかったものの、面談数の割合が昨年度より2.7%増加した。今後も面談数が増加するように、日程等について工夫してゆきたい。
	②教職員が生徒理解を深めるため、6月と10月に個別の面談を実施する。面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。	総務課 学年会 担任	活躍生と1回以上面談できた割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 B】 68.2% 生徒数592人中、面談数404人	昨年度は520人中、生徒との面談数は279人であった。通信制の在籍生徒数は昨年度より72人増加している。面談数が比例して多くなることは予想されていたが、今年度は予想以上の増加率となり、B判定に到達することができた。今後もこの判定を維持するために、生徒への面談参加への積極的な呼びかけを行ってゆきたい。
4 各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	①教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	教頭 各課 各学年	年次休暇を12日以上取得したという教員が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	【判定 D】 52.6%	・4月から1月末までの平均取得日数は10.4/人であった。5日以下の取得が5人いた。 ・時間外勤務の報告で、毎月8割前後が20時間以内に収まっており、概ね定時退校時間が意識できていると思われる。
重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度	集計結果	備考
5 卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を行い、就業率や進学率を高める。	①卒業後の進路目標を確立するために、進路説明会およびロングホームルームで就職や進学についての流れを説明し、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	進路課 学年団 担任	アンケートでLHでの進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったと答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 D】 LHでの進路説明やアンケートの実施をすることができなかった。	・6月開催の大学や専門学校による進路説明会では、参加者163名中、96%の生徒が進路選択の参考になったと回答しており、今後も反省を踏まえ開催していきたい。 ・来年度はLHのうちのいずれかを進路説明の時間として確保したい。
	②生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるように、教職員が就労の意義、職業、資格について指導する。学年団、進路、教務、総務課が資料や情報を生徒に与え、総合的な探究の時間などを活用して進路指導を行う。	総務課 進路課 教務課 卒業学年	卒業時に進路が決定している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 B】 卒業生163人中、進路決定者123人(75.5%)	・昨年度は卒業生131人中、進路決定者は93人(71%)であった。昨年度より4%増加した。今後も進路に関する情報提供を進めていく。
学校関係者評価委員会の評価		学習に対してスムーズに取り組めない生徒もいると予想されるが、卒業後をイメージさせるなどして、学びに取り組ませて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方策		スクーリングや面談等を通して生徒一人ひとりの生活状況を把握し、教職員間で共有し、学校行事などに参加することを提案するなどして、生徒のキャリア形成を進めていく。			